

はじめての

万葉集

[vol.91]

[vol.91]

訳

味酒 三輪の祝の山照らす 秋の黄葉の散らまく惜しも

長屋王

卷八(一五一七番歌)

味酒三輪の神官がまもる山を輝かせる秋の黄葉の、散るのが惜しいよ。

三輪山の黄葉

この歌は天武天皇の子である御名市皇子と、天智天皇の子である御名部皇女との間に生まれた長屋王が詠んだ歌です。



長屋王は、藤原不比等が没した翌年の養老五(七二二)年に右大臣に、聖武天皇が即位した神亀元(七二四)年に左大臣となり、皇親として政治を担いました。平城京の一等地に位置する邸宅跡(奈良市二条大路南一丁目)からは「長屋親王宮」などと記された木簡も出土しており、往時の権力の大きさがしのばれます。

しかし、神亀六(七二九)年二月、左道を学び国家を傾けようとしているとの密告により謀反の罪に問われ自害したと『続日本紀』に記されます。同年八月には天平と改元され、不比等の娘である安宿媛が皇族出身ではないのにも関わらず皇后となり、武智麻呂、房前、宇合、麻呂ら藤原氏の四兄弟が台頭したことからみて、長屋王事件は藤原一族の謀略であったことがうかがえます。

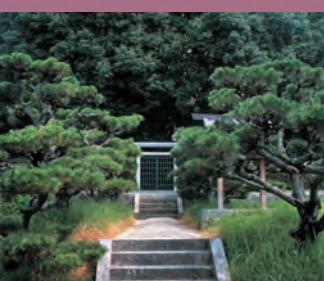
この歌の作歌年月は不明ですが、

(本文 万葉文化館 井上さやか)

長屋王は、藤原不比等が没した翌年の養老五(七二二)年に右大臣に、聖武天皇が即位した神亀元(七二四)年に左大臣となり、皇親として政治を担いました。平城京の一等地に位置する邸宅跡(奈良市二条大路南一丁目)からは「長屋親王宮」などと記された木簡も出土しており、往時の権力の大きさがしのばれます。

「味酒」は「三輪」にかかる枕詞です。『日本書紀』崇神天皇条に、活日という人物が大神の「掌酒」となり天皇に「神酒」を献上した記事や「神酒」(卷十三・三三・九番歌)の表記例などから、酒にゆかり深い地である「三輪」の枕詞となつたといわれます。

長屋王は『万葉集』に歌五首、『懐風藻』に五言詩三首を残しており、自宅で新羅の賓客をもてなす文雅の宴なども開いていました。政治だけでなく文学にも通じた人物であり、生まれ故郷である飛鳥に近い三輪山の黄葉を愛でたひとときがあつたようです。



写真提供: 平群町経済建設課



所平群町梨本
問平群町経済建設課
☎0745-45-1017

万葉ちゃんの

つぶやき

和歌や作者などに関連するものを紹介するよ!



長屋王御陵公園 (平群町)

長屋王墓は、近鉄平群駅の北東にある直径約15mの円墳で、江戸時代の伝承に基づいて宮内庁より治定されています。

その長屋王墓に隣接して造られていますのが、長屋王御陵公園です。この公園には、トイレや休憩スペースが整備されています。